

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する、人間性豊かな人格の完成をめざす。
2. 工業教育を通じて、規範意識を身につけさせ、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。
3. 北摂唯一の府立の工業高校として、「ものづくり」の技術と技能、知識によって将来の地域社会を担うことができる人材を育成する。
4. 府立の工科高校における高大連携重点型校として、大学等と連携した工業教育で、技術と理論を兼ね備えたエンジニアを育成する。
5. 中学校や生徒、保護者から「丁寧でめんどうみのよい学校」と言われるなど、地域等から愛される学校をめざす。

2 中期的目標

- 1 「確かな学力」の育成
- (1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善に取り組む。
- ア 少人数授業、授業評価、ICTの活用、研究授業等を通じて、より「わかりやすい授業」をめざして組織的に授業改善に取り組み、中退率改善を図る。
- ※ 平成 25 年度入学生から導入した「学び直し」のための学校設定科目「基礎教養」を発展、充実させ、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の肯定的な評価の目標を平成 31 年度は 55%以上とし、2021 年度には 60%以上とする。(平成 30 年度 52.6%)
- ※ 中退率 3%未満をめざす。(平成 30 年度 3.8%)
- 2 安全安心で魅力ある学校づくり
- (1) 生徒の規範意識を醸成し、規律ある学校生活を送らせるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。
- ア 挨拶、身だしなみ等、社会人として求められる礼儀を身につけさせるため、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
- イ 教育相談体制を充実させるとともに、人権教育・支援教育を推進する組織の活性化を図る。
- (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高めるとともに、事故のない安全な学校づくりに取り組む。
- ア 生徒保健委員会を活用し、校内美化の取組みを推進する。
- (3) 生徒会活動、部活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
- ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化を図り、生徒自らが課題意識をもって学校生活を送れるよう支援する。
- ※ 年間遅刻総数について、平成 31 年度 1750 件以下に削減することを目標とし、2021 年度には 1500 件以下とする。(30 年度 1987 件)
- ※ 学校管理下での事故、特に「実習中の事故ゼロ」を継続する。
- ※ 部活動の加入率を平成 31 年度には 45%以上とし、2021 年度には 50%以上をめざす。(平成 30 年度 39%)
- 3 自立・自己実現の支援（～工科高校の理念である「専門分野の深化」と「高等教育機関への接続」の推進～）
- (1) キャリア教育・職業体験教育の充実に努める。
- ア 「インターンシップ」等の体験的学習を重要な教育活動として位置づけ取り組む。
- (2) 資格取得指導等を通じて、生徒に達成感、成就感を醸成し、進路実現への意欲を高める。
- ア 資格取得や就職試験に向けた全校的な協力体制を推進する。
- (3) 理工学系大学等の高等教育機関への進学を希望する生徒の支援を強化し、ものづくりマインドを持った将来の高度技術者の育成をめざす。
- ア 工学系大学進学専科における理工学系大学等への進学希望者の進学率 100%をめざす。(平成 30 年度 100%)
- (4) 全国工業高等学校長協会の 100 周年記念事業「小型人工衛星打ち上げプロジェクト」の製作協力校として取り組んできた成果を生かし、小型人工衛星の打ち上げに取り組む。
- ア 大阪府立大学工学研究科小型宇宙機システム研究センター等の関係諸機関と連携を図りながら、生徒に技術・技能を学ばせる。
- ※ 学校紹介による就職内定率 100%を堅持する。
- ※ インターンシップの参加者数の目標を平成 31 年度 25 人とし、2021 年度には 30 人にする（平成 30 年度 20 人）。
- 4 地域連携・地域貢献の取組みの推進
- (1) 地域の中学校教員との情報交換（中高連絡会）や学校訪問、出前授業等の充実を図るなど、中高連携を推進し、アドミッションポリシー（求める生徒像）が中学生、保護者等に明確に伝わるよう学校情報を積極的に発信する。
- ア 生徒・保護者向けの学校説明会等に加え、中学校教員向けの施設見学会等を卒業生や在校生の協力も得て実施することより、中学生、保護者、教員等の工科高校への理解（工科高校の「再発見」）を促し、志願者増加につなげる。
- (2) 学校設定科目「課題研究」における「ものづくり」技術を活用した地域貢献活動を通じて、生徒に自尊感情・自己有用感を醸成する。
- ア 平成 27 年度から実施している課題研究発表会を定着、発展させ、プレゼンテーション能力を育成するとともに、地域に積極的に公開し、工科高校の特色を広く伝える。
- ※ 平成 29 年度から開催している「茨木工科展」を継続開催し、本校の取組みを発信するとともに地域の方々と交流をおこなう。
- ※ 茨木市の小・中学校に対して、アルミ製朝礼台等を製作し、寄贈することを継続し、地域に工科高校の特色を周知する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 1 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○生徒 「授業はわかりやすくて楽しい」の肯定率が昨年より約 3 %あがった。各教科で授業改善に関する検討を行う機会を設けることにより、さらに向上するよう、取組みを進める。 教育相談関連の肯定的回答は 48.8%であった。担任や学年との連携をさらに強めるとともに教育相談の周知に力を入れて 50%以上の肯定率をめざす。 ○保護者 保護者がわからないと回答した数が多い設問（PTA 活動、いじめに対する取組等）については、同じ結果とならないよう、取組みを進める。 「この学校に入学させてよかった」という回答の肯定率が 90%を超えた。学校全体で生徒の様々なことへの支援に対する評価だと考えられる。	○第 1 回 ①理工学系大学等の高等教育機関への進学を希望する生徒の支援の強化を目標に掲げているにも関わらず、理工学系大学への進学数が少ないのではないかと。 ②遅刻指導についても丁寧に取り組まれているが、遅刻した際の状況もよく聞いてもらって、柔軟な指導も視野に入れてもらって引き続き丁寧な指導をしてもらえるとありがたい。 ○第 2 回 ①大学進学専科の定員を充足させるためにはもっと PR や魅力ある取組みが必要である。現在実施している取組みも含めて精査して成果をあげてもらいたい。 ②規律違反に関して、規律違反の範囲を生徒が理解しきれていない部分があるように思うので、生徒が規律違反の範囲を正確に認識するように働きかけてほしい。 ○第 3 回 ①進学の成果が上がってきていることは認めるが、専門学校に行く生徒も一定数いるので、4 年生大学への進学をもう少し増やせるよう取組みを進めてもらいたい。 ②ホームページで様々なことを本校の保護者に発信することが中学生の保護者への発信にもつながると思うので、ホームページの更新回数をもう少し増やしてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」の育成	(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の取組み ア 少人数およびICT 機器等を活用することによる「わかりやすく楽しい授業」創出のための組織的な取組み イ 中退率改善をめざす取組み ウ 「学び直し」を活用した基礎・基本的な学力の定着をめざす取組み エ 授業公開の取組み (2)工学系大学進学専科における取組み ア 理工学系大学等で高度な知識、技術を学ぶための確かな学力をつける取組み	(1) ア 数学、英語で1クラス2 展開授業、習熟度別授業を実施する。さらに、学習指導要領の改訂に向け、授業改革推進組織を中心に、主体的・対話的で深い学びへの取り組みとして、ICT 機器等を活用した研究授業を行うなど組織的な授業改革を進め、わかりやすく楽しい授業を創出する。 イ 学習指導、生徒指導の充実はもとより、多様な生徒が入学してくることを踏まえ、教育相談の充実、生徒情報の共有化などを通じて中退率の減少を図る。 ウ 学校設定科目「基礎教養」において、教育産業の教材を活用するなどしながら、生徒それぞれのニーズや学力に応じた教育を展開することで基礎学力の定着を図る。 エ 経験年数の少ない教員を中心にしながら、推薦授業を設定するなど、組織的な研究授業および研究協議を年に数回実施する。また、授業改革の効果を高めるため、各科・系における研究会議を定期的に実施する。 (2) ア. 数学・英語・理科の放課後、土曜日や長期休業中の講習や数学Ⅲにおける習熟度2 展開授業を通じて、理工学系大学等の受験、入学後の学びに備える。	(1) ア 生徒による回答「授業はわかりやすく楽しい」 肯定率 55%以上 (H30 52.6%) イ 中退率 3%未満 (H30 3.8%) ウ GTEC おける1 年3 学期次の数学学力下位ゾーン (D3) を1 学期実施との比較で3 ポイント減少 エ 生徒による回答「教え方に工夫をしている先生が多い」 肯定率 65%以上 (H30 60.9%) (2) ア 理工学系の進学希望の第1 希望 (初回受験校) 合格率 90%以上。(H30 100%)	(1) ア、生徒による回答「授業はわかりやすく楽しい」 肯定率は 55.4%であった。引き続き、各教科で授業改善に関する検討を行う機会を設け、授業改善に取り組む。(○) イ 中退率は 2.1%であった。(◎) ウ 教育産業の基礎力診断テストにおける1 年3 学期次の数学学力下位ゾーン (D3) を1 学期実施との比較で3 ポイント増加した。来年度は基礎教養等の授業を活用して学力の定着を図る。(△) エ 生徒による回答「教え方に工夫をしている先生が多い」 肯定率は 63.8%であった。来年度は各教科で授業改善に関する検討を行う機会を設け、授業改善に取り組む。(△) (2) ア 理工学系の進学希望の第1 希望の初回受験校の合格率は 91.8%であった。(○)
2. 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 規範意識を身につけさせ、個々の生徒への支援体制を充実させる取組み ア 遅刻数削減、授業規律確立の取組み イ 教育相談体制の充実 (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高める取組み ア 生徒保健委員会の活用 (3) 生徒会活動、部活動を通じた生徒の自己有用感、帰属意識の醸成 ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化 (4) 働き方改革に向けた取組み	(1) ア・遅刻ゼロの日、生活強調週間、登下校指導の強化等、生徒の意識を喚起する取組みを全校あげて組織的に推進するとともに、現在分掌中心に行っている「遅刻指導」に担任や生徒会が深く関わることで、ここ数年着実に減少している遅刻数のさらなる減少をめざす。 ・平成 26 年度に導入した身だしなみ、授業規律違反カード制を徹底し、一層規律ある学校生活を送らせる。 ・インターネットやスマートフォンの利用等、情報の取り扱いについての基礎的な資質や能力を講演会、教科指導 (情報技術基礎) を通じて養い、情報モラルの育成を図る。 イ スクールカウンセラー、支援教育コーディネータ等の活用を通じて、個に応じた支援を充実させる。 (2) ア 行事後、考査前の一斉清掃に徹底して取り組み、校内美化を推進する。 (3) ア・部活動の活性化を図り、生徒の加入率の向上に努めるとともに、施設設備の充実に取り組む。 ・生徒会主催の校外清掃活動や募金活動等、社会貢献につながる活動に取り組む。 (4) ・分掌業務・クラブ等の業務効率化を図り時間外勤務時間削減を図る。	(1) ア・遅刻総数 1750 件 (H29 年度 3530 件) (H30 年度 1987 件) ・生徒アンケート「違反カード」の理解度 80%以上 (H30 年度 身だしなみ 79%、授業規律 79%) イ 学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答 50%以上 (H30 45.1%) (2) ア 保健安全指導部による清掃点検における○ (良好) 90% 以上。(H30 年度 90%) (3) ア・部活動加入率 45%以上。(H30 36.0%) ・参加生徒数 230 人以上。(H30 239 人) (4) ・時間外勤務月 80 時間以上を超える教職員と必ず面談し、年間延べ 20 人以下をめざす。(H30 26 人)	(1) ア 遅刻総数は 1489 件であった。(◎) 生徒アンケートはコロナウイルスの影響で、今年度実施することができなかった。 イ 学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答は 48.8%であった。担任や学年との連携をさらに強めるとともに教育相談の周知に力を入れて 50%以上の肯定率をめざす。(△) (2) ア 清掃点検による良好の割合は 96%に向上した。(○) (3) ア・部活動加入率は 47%に上昇した。(○) ・校外清掃活動等の取り組みに参加した生徒は 189 人と減少した。次年度は少しでも多くの生徒が参加するよう働きかけたい。(△) (4) ア 時間外勤務月 80 時間以上を超える教職員は 16 人であった。(○)
3. 自立・自己実現の支援	(1) キャリア教育・職業体験教育の充実 ア インターンシップ等への取組み (2)資格取得を通じた生徒の達成感・成就感の醸成、 ア 資格取得に向けた全学的な協力体制の推進 イ 生徒の希望する進路実現に向けた組織的・計画的な進路指導体制の確立 (3) 大学、専門学校への進学希望生徒に対する支援、適切な進路指導 ア 生徒保護者へ適切な進路情報の発信 (4) 小型人工衛星製作への取組み ア 製作への取組み	(1) ア 地域産業との連携を深め、受け入れ先企業の安定した確保に努める。また、インターンシップの利点を伝えるため、参加生徒の成果発表の場を設け、参加生徒の増加につなげる。 (2) ア・授業はもとより早朝、放課後の時間帯を活用し、生徒の資格取得を支援する。 イ・地域企業を中心に組織的な訪問をおこない、求人の確保、企業連携の強化に努める。 ・就職試験のための個々に応じた面接指導の取組みを充実させる。 ・教育産業の支援を受け、本人の適性をより客観的に把握することにより、就職におけるミスマッチを防止する。 (3) ア 大学、専門学校進学希望者に対し、本人の学力や適正に応じた進路指導を行い、進学におけるミスマッチを防止する。 (4) ア 全国工業高等学校長協会の 100 周年記念事業の製作協力校として、取り組んできた成果を生かし、大阪府立大学工学研究科小型宇宙機システム研究センターとの連携を深めながら人工衛星製作に求められる技術を学び、製作に取り組む。	(1) ア・参加生徒 25 人以上 (H30 20 人) (2) ア・電気系2 年生の第二種電気工事士合格率 75%以上。(H30 75%) その他資格取得、特に危険物取扱者乙種、旋盤技能検定 3 級の合格者数の増加。 (H30 14 人) イ・企業訪問数 120 社以上 (H30 122 社) ・第1 次就職試験合格率 80% 以上。(H30 年度 79.3%) (3) ア進学生徒の第1 希望 (初回受験校) 進学決定率 90% 以上 (H30 86%) (4) ア・宇宙環境に耐えうる電源周辺部品の製作。 ・大阪府立大学との連携授業 3 回以上 (H30 年度 3 回)	(1) ア インターンシップに参加者した生徒は 21 人であった。生徒に意義を理解してもらえよう、さらなる取組みの検討を進める。(△) (2) ア 電気系第二種電気工事士合格率、97.1%であった。また、危険物取扱者乙種、旋盤技能検定 3 級合格者は昨年度より 6 人増加した。(◎) イ 今年度企業訪問数は訪問企業を厳選した結果 107 社であった。来年度は今年度と同数程度の企業訪問をして生徒の進路先の確保に努めたい。(△) ・第1 次就職試験内定率 84.2%であった。(○) (3) ア 進学生徒の第1 希望の進学決定率は 80%であった。来年度は事前指導の方法を再検討し改善を図る。(△) (4) 宇宙環境に耐えうる電源周辺部品の製作に向けた連携授業を 3 回開催した。継続して連携できるよう、大阪府立大学に働きかけて行く。(○)
4. 地域連携・地域貢献の取組みの推進	(1) 中高連携の推進 ア 中学校の生徒、保護者、教員の工科高校への理解 (工科高校の「再発見」) を促す取組み (2) 「ものづくり」による地域貢献活動の取組み ア 課題研究充実への取組み (3) 地元自治会、行事への参加、連携 ア 部活動による地域連携 イ 本校教育活動の地域への発信	(1) ア・学校の魅力を伝えるため、地域の小中学校に積極的に働きかけ、出前授業を積極的に行う。 ・実習体験・オープンスクール・学校説明会について、反省点を踏まえ、実施方法、PR 方法を改善し、参加者増加につなげる。 ・ホームページを活用し、より多くの更新を行うことにより、学校情報を効果的に発信する。 (2) ア・アルミ製朝礼台等の製作・寄贈継続、ものづくり支援や教育支援への参画を図る。 (3) ア・地元自治会行事において部活動を中心とした地域連携をおこなうことにより、学校教育活動の発信および生徒の自尊感情向上につなげる。 イ・地域の方々との交流型イベントを開催し、本校教育活動の発信および相互交流をおこなう。	(1) ア・5 校以上の出前授業実施。(H30 年度 5 校) ・延べ参加者数 650 名以上、(平成 30 年度 633 人) アンケートによる満足度 90%以上。(H30 年度 約 93%) ・更新回数を 150 回以上とする。(H30 年度 142 回) (2) ア・茨木市内小中学校への寄贈 (2 台) を継続。 (3)・地元行事への出席、地域の文化祭やイベントへの部活動の参画 (年間 3 回以上) (H30 年度 3 回) ・1 昨年から開催している「茨木工科展」の継続開催	(1) ア・7 校で出前授業を実施した。継続して少しでも多くの学校に出前授業がしてもらえるよう、PR の取り組みを進める。(○) ・述べ参加者数は 909 名であった。(◎) 満足度は 94%であった (○) ・更新回数は 228 回であった。(◎) (2) ア アルミ製朝礼台 2 台を茨木市立小学校へ寄贈、また、掲示板 3 台を中学校に寄贈した。来年度も継続する。(○) (3)ア・地域との交流イベント等に 3 回参加した。来年度も積極的に参加し、PR に努めるとともに生徒が活躍する機会を設ける。(○) ・茨木工科展を中央図書館ときらめきホールで開催した。述べ 541 人が参加した。来年度も実施し、地域との地域を進める。(○)